



## 調査事件11

### 第3期福島町人口ビジョン・総合戦略の策定

— 2月14日調査 —

## 人口1,600人時代へ、足元の産業にも光を

町は、第2期計画が令和6年度で終了するため、令和7年度からスタートする第3期計画の策定を進めており、委員会ではその内容を調査しました。

### ●計画策定の基準数値を明確に

社人研推計や国勢調査など、様々な統計データを使用しているが、基準となる数値が分かりづらい点を指摘する。

前計画との比較検証に支障が出ないように、極力、基となる統計データは変えずに使用するよう望む。

### ●地元木材活用による地元林業活性化

定住促進住宅など公共施設整備において木質バイオマスボイラー導入や地元材を積極的に使用し地元林業の活性化に繋げるべきと考慮するので検討されたい。

### ●機械化・省力化による地元農業の魅力化

農業には課題も多く、AI等の技術を活用した機械化・省力化を進め、活力・清潔感があり若者にとって魅力的な雇用の場を目指す農業法人の設立に向け積極的に支援されることを検討されたい。



## この計画って何？

人口の減り方をゆるやかにしながら暮らしを支える仕組みを整えていくための指針です。

これからの人口減少を見据えたうえで、町の暮らしを守り、元気な地域を続けていくための計画。

町では、「若い世代が定住しやすい環境を整える」「仕事を増やす」「移住や観光で人との繋がりを広げる」といった取り組みを進めていこうとしています。

## 人口はどうなるの？

令和27年（20年後）

社人研推計      町の目標

1,602人      1,609人

※令和7年4月末の人口

3,350人

## 社人研って？

「国立社会保障・人口問題研究所」という国の研究機関。日本全国や市町村ごとの将来の人口を過去のデータをもとに予測している。

社人研の推計は「このまま何もしなければ、こんな風に減っていく」という見通し。



## 調査事件12

### 脱炭素社会の実現に向けた取組状況

— 2月25日調査 —

#### “森林と海”が鍵を握る脱炭素、実態把握と住民の理解が課題

町は、2050年度実現に向け「脱炭素戦略」・「地球温暖化対策実行計画」を策定し、脱炭素社会実現に向けた取組を進めています。委員会ではその内容を調査しました。

##### ●実態が把握できているのか？

アンケート調査の回収率が低く、町内の実態を把握できているとは言い難いと推察する。実態分析が適切だったのか懸念される点を指摘する。

##### ●森林、海洋保全による脱炭素推進

町の実態から一番実効性があるのは「森林、海洋保全によるCO<sub>2</sub>吸収量の維持」と思われる。森林保全には、適切な管理が重要であるが、シカや害虫による被害が大きな問題となっているため、国・道と連携し適切な対策を望む。

##### ●町民への周知PRの徹底

取組を進めるには、町民に計画の内容を理解してもらうことが重要だが、ごみ減量化・リサイクル運動の現況からも住民への周知は難しいと推察される。町内会や関連団体等へ計画の主旨を説明し、わかりやすい資料を作成し継続して周知・PRして行くことを検討されたい。



## 調査事件13

### 部活動の地域移行

— 2月25日調査 —

#### 「やりたい」を諦めさせない体制づくりへ努力を

町は、部活動の現況や課題等について整理し、当町としての今後の部活動の在り方について検討を進めています。令和6年度の取組状況について委員会ではその内容を調査しました。

##### ●子供たちの選択肢を広げる体制を

拠点校方式で実施している部活動以外（団体種目のみならず個人種目も含め）の活動も選べる体制作りが必要。

「生徒の心身の健全育成」の観点からも、生徒の期待に応え、将来の可能性を伸ばす機会を提供する努力はすべきと思慮するのでさらに検討されたい。

##### ●指導者の確保・報酬

指導者の確保に地域おこし協力隊を活用する方法もあると思慮するので検討されたい。

##### ●生徒の移手段・費用

保護者にとっては、大会以外の送迎負担が大きいため、四町で送迎バスを運行する等の体制作りが必要と思慮するが、各町との足並みが揃うまでは町単独で保護者の負担軽減に対応することも必要と思慮するので検討されたい。

#### 拠点校方式って？

希望する部活動がない生徒が、他校の拠点校で活動に参加できる方式。福島、松前、知内、木古内の四町では、バスケットボール部（拠点：福島）と野球部（拠点：知内）で実施中。



## 調査事件14

### 岩部地区等活性化及び昆布養殖作業省力化に向けた取組状況

— 1月30日調査 —

#### 岩部の再生と昆布漁業の再編へ

令和5年度に策定された当該構想・計画の令和6年度の取り組み状況について、委員会ではその内容を調査しました。

##### ●岩部地区、無居住化への対応

火災により岩部地区が無居住となり、保安上の問題が懸念される。岩部クルーズに來訪する観光客の安全確保と併せて同地区の防犯対策について検討すべきと思慮する。

道道岩部線については、生活道路維持管理の重要度が低下することが懸念されるが、クルーズ観光の現状・今後の整備計画を充分説明し、現状どおりの対応を強く要望、交渉することを望む。

##### ●展望台・河川の整備

展望台や、河川の整備は、優先度を下げるのではなく、総合的な構想として基本計画に登載し、早急に国・道と協議を始める必要があると思慮するので検討されたい。

##### ●管理エリアの整備

クルーズ以外の滞在時間を延ばすことが今後の課題となっているため、休憩所や売店設置など多目的施設整備の早期実現に向け、財産所有者との交渉を進めるよう望む。観光客増により問題となる防犯対策やトイレの整備等も必要不可欠と思慮されるので検討されたい。

##### ●昆布養殖漁業の現状把握

町が取り組みを進めるにあたっては、昆布養殖漁業の現状を正確に把握することが重要であるが、この度の資料にも詳細が記されていないことを再度指摘しておく。

##### ●共同利用施設の整備

漁協・養殖昆布漁業者からの強い要望を受け、共同利用施設の整備に向けた協議を進めるとしているが、現在、4つの生産部会があり、特に、福島地区が販売方法等の相違から3つに分かれている。作業効率化を進める上でも重要な課題と推察される生産部会の統一、省力化・協業化に向けてさらに努力されることを望む。



共同利用施設整備候補地（福島漁港内）



## 調査事件12

### 第3期福島町子ども・子育て支援事業計画の策定

— 2月3日調査 —

#### 子育て支援、福島らしさと地域の声をどう生かすか

町は、第2期計画が令和6年度で終了するため、令和7年度からスタートする第3期計画の策定を進めており、委員会ではその内容を調査しました。

##### ●子ども・子育て会議構成委員

「子ども・子育て会議」の構成委員に町内会や町内産業団体等の関係者を加え計画推進を図ることを早急に検討されたい。

##### ●自助・共助の意識付け

本来、子育ての主体・責務は親や家族にあり、町の支援と併せて「子育て」についての認識・責任を醸成する対策が必要と思慮するので検討されたい。

##### ●町の実態に合わせた計画策定

国が主導する計画は当町のような小規模な過疎自治体を想定していないと思われるため、小さい自治体の利点を生かし、町独自の計画策定を期待する。



## 調査事件13

### 第4期福島町地域福祉計画の策定

— 2月3日調査 —

#### 支え合う福祉へ — 町と地域がつながる仕組みづくりを

町は、第3期計画が令和6年度で終了するため、令和7年度からスタートする第4期計画の策定を進めており、委員会ではその内容を調査しました。

##### ●自助・共助・公助の意識付け

自助・共助の考え方が町民にはよく理解されていないことが懸念されるので、より具体的な例を示しながら理解を求めると必要があると思慮するので検討されたい。

##### ●「食を営む力」の取り組み

「食を営む力」は、町民の食育推進に重要な視点であり、町全体で取り組んで行く必要があると思慮されるので、他の施策への記載も検討し、普及に努められたい。

##### ●地域福祉計画の推進について

本計画は、行政の全ての部署に関連する広範囲な計画であり、計画の検討・推進は役場全体で行い、情報共有する必要があると思慮するので検討されたい。

社会福祉協議会については、主要な構成メンバーとして協議・連携がとれていないことが懸念される。今後は積極的に協議を行い、連携して計画推進にあたるよう望む。

#### 食を営む力って？

「食」に関する知識やバランスの良い食の選択ができる力であり、健全な心身の育成につながるとされています。



## 調査事件 1

### 認定こども園福島保育所改修事業

— 4月15日調査 —

#### “工事中”でも、子どもたちの毎日を大切に

町は、建物の長寿命化を図るべく、大規模改修を今年度当初予算に計上している。この度、町より改修工事の内容について資料が示されたことから、委員会ではその内容を調査しました。

##### ●効果的なエアコンの選定

職員室・準備室については窓枠エアコンを設置するとのことだが、位置的に室内が高温になることが想定されるため、環境に十分対応できる機器の選定を再検討されたい。

##### ●設計内容の精査

近年の大型事業では、工事着工後に設計変更や事業費の補正等が行われるケースが多く見受けられる。

今回の事業では、設計内容を精査、関係者と十分協議を行い、極力設計変更等が発生しないよう施工されたい。

##### ●屋外遊戯スペースの管理

以前から運動会等で正面入り口以外から出入りする人が見受けられる。

閉園中に子ども達が園内に入って遊ぶことも考えられるので、事故防止のためにも閉園後の対応と侵入防止対策が必要と思慮するので検討されたい。

##### ●午睡への配慮を

工事期間中の騒音対策について、特に子どもたちの午睡中には最大の配慮が必要であり、騒音が想定される工事はできる限り休園となる土・日に施工されるよう計画調整されたい。

# 議会改革調査特別委員会レポート

## 調査事件

### 議会体制のあり方、議員のなり手確保対策等 議会改革

— 3月24日調査 —

#### 町民と議会の距離を縮めるには？

「町民と議員との懇談会」「栗山町議会齊藤副議長による講演」が終了したので、今後の議員のなり手対策の進め方について委員会で検討しました。

##### ●先進地視察

先進地視察を実施することに決定した。視察先の候補として浦幌町や芽室町、新十津川町という意見が出されたことから、各委員で候補先の情報を把握し意見を持ち寄り協議することとした。

##### ●議員の学校

当議会で「議員の学校」を開催する事は、講師となる議員の問題等もあり難しいとの意見が出され、開催は見送ることとした。

##### ●議会モニター導入

近隣町で実績がある議会モニターを導入すべきとの意見が多かったことから、当議会として議会モニターを導入する方向で検討することとした。しかし、導入にあたっては、諮問会議委員との兼ね合いや人数、報酬等様々な課題の整理が必要であり、先進地事例などの情報を収集し制度設計を行い出来るだけ早く導入することを確認した。